

所信

鈴木 充

はじめに

バブル景気が終焉し早20年。青年世代である我々はバブル経済崩壊後に社会に出た人が多く、特に秋田においてはその後の微々たる景気回復も見られないまま月日が経ってきており、働き始めて一度たりとも今年は景気が良かったと実感することなく過ごしてきました。確かに経済指標を見れば悪化の指数ばかりで挙げてはきりが無く、国家レベルですらどうしようもない状態になっているのは皆が知るところです。

しかし、毎年悪くなる景気の中、我々はこの20年を生きてきました。もがきながら生きてきました。劇的に世の中が良くなることなど考えられない今の時代、物質的な豊かさを求める時代は終わりました。

秋田県には学力日本一と言われる勤勉な子どもたち、先人たちの偉業に感謝せずにはいられない174%を誇る食料自給率、風光明媚な土地柄で、三方を山に囲まれ、もう一方には国の名を冠にもつ雄大な日本海。その他にも秋田には誇れるものがたくさんあるにも関わらず、その素材を我々は残念ながらうまく活用できておりません。その現状を打破すべく、県都秋田市を中心とする地域に根ざした活動をする我々には、愛するまちあきたの発展のために行動する責任があります。

生を受け歩んできた道もまた人様々でありましょう。皆さん今一度振り返ってみませんか。自分の人生に影響を受けたターニングポイントが必ずあるはずです。人は人と出会い、関係し、その大きな輪の中で生きているのです。皆が培ってきた出会いと経験を結び、地域のために動き出そうではありませんか。

まこと
真の豊かさの伝播

愛するまちあきたには物質的な豊かさが都市圏から見れば少ないのは現実です。人はどうしても物質的な豊かさに幸せを求めがちで、それがかえって心の余裕を奪っているように思えてなりません。幸せの尺度は十人十色でしょうが、愛するまちあきたに住む我々は他の地域より大いに魅力あふれる地域であり、大いに誇り高き土地なのだとすることを認識する必要があります。

我々が長い年月を費やし培ってきた地域の魅力と誇りを広い世代に伝播し「自分たちは秋田に生まれたことは幸せなことなのだ」と感じる事業を展開し、山積する問題を打破する礎を築いてまいります。

市民社会資本の構築を目指して

あきたの良いところは点在しておりますが、これは経済社会の中においては残念ながら脆弱で、宝の持ち腐れとなっているのが現状です。あきたの発展のためには一つのこと資源・人材を集中する必要があります、そのためには市民社会資本の構築が急務と考えます。

多種多様な団体がある中、青年会議所は今までと違った視点でまちづくりに参画する必要があり、ハブ的な要素を持ちつつも、イニシアチブをとり、市民社会資本の構築を強力に推進して行くことが重要であります。それにはやはりリーダーの存在が必要であり、社会的にも企業的にも望まれるリーダーの育成に向け様々な事業を展開してまいります。

あきたの未来に夢と希望を

晴れたある日、子供達が公園に“集まって”いるのを見かけました。野球やサッカー、ブランコや鬼ごっこをしている様子でもありません。声を上げることもなく静かなのです。目を凝らしてみると、携帯ゲームで遊んでいたのです。愕然としましたが、これが正しいのか、間違いなのか判断できませんでした。

子ども達を取り巻く環境は日々変化し続け、順応力のある子供達とは違い、我々世代が理解できずに対応が遅れているのではないのでしょうか。そこに起因し、我々の考えが押し付けがましくなっているようにさえ感じます。

古きよき時代の遺産は余すことなく伝え、新しい時代の価値観を受け入れることができる事業を展開することで、夢と希望の描けるあきたになると確信いたします。

公益社団法人格取得に向けて

(社)秋田青年会議所は愛するまちあきたと共に発展してまいりました。ここ数年はこれまでの歴史に感謝しつつ、更なる進化をもって積極的にまちづくりに参画するためにも公益社団法人格取得に向け組織改革を行ってきました。そして2011年度はいよいよ公益社団法人格移行申請の年でもあります。地域発展につながる事業を展開することを念頭に活動すれば決して難しいことではありません。自分達を信じ、迷うことなく邁進してまいります。

1952年4月16日秋田青年会議所が発足しました。大変多くの先輩達のあきたに対する熱い想いが受け継がれ、2011年には59年目を迎えます。

その歴史を糧に、地域の為になることを大いに語り合おうではありませんか。共に行動し、多くの汗を流し、多くの感動を分かち合おうではありませんか。奉仕・修練・友情の三信条のもと運動する我々は強い絆で結ばれた“仲間”なのですから。